

令和 2 年度全学 FD/SD 研修会について

教育支援研究開発センターでは、全学的な FD/SD 推進を担う部署として、本学の課題を踏まえ、ニーズに合致した研修会を企画しています。参加する教職員や学生に対して、今後の教育のあり方や大学運営について考える機会を提供するため、毎年、全学 FD/SD 研修会を実施しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全てオンラインで実施しました。

令和 2 年度は、計 3 回の全学 FD/SD 研修会を実施しました。第 1 回・第 2 回は前年度で「教養としてのデータサイエンス」（詳細は、CERADES News vol.16 参照）を実施し、「データサイエンス教育」の重要性を鑑みて、第 2 弾・第 3 弾として外部講師を招聘し「データサイエンス教育」をテーマとした研修会を実施しました。

第 3 回は、令和元（2019）年度から第 3 期の認証評価が開始され、本学においても令和 5（2023）年度までの受審が予定されていることから、「内部質保証と教学マネジメント」をテーマとした研修会を企画し、第 3 期認証評価で高い評価を得た立命館大学の事例を基に講演いただきました。

詳細は各ページに記載していますので、是非、ご覧ください。

全学 FD/SD 研修会実施一覧

第 1 回

日 時：令和 2 年 9 月 15 日

テーマ：「データサイエンス教育の動向と先行事例について」

講 師：山本 章博 氏

（京都大学大学院 情報学研究所 教授 /
京都大学 国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター長）

第 2 回

日 時：令和 2 年 12 月 14 日

テーマ：「データサイエンス教育の先行事例について」

講 師：増川 純一 氏（成城大学 経済学部 教授 /
データサイエンス教育研究センター長）

第 3 回

日 時：令和 3 年 2 月 9 日

テーマ：「大学固有の内部質保証のストーリーを考える
—立命館大学の内部質保証システムと学習成果の可視化を手がかりに—」

講 師：鳥居 朋子 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授 /
大学評価・IR 室 副室長）

Contents



〈FD/SD活動の推進〉

第 1 回全学 FD/SD 研修会の開催



〈FD/SD活動の推進〉

第 2 回全学 FD/SD 研修会の開催



〈FD/SD活動の推進〉

第 3 回全学 FD/SD 研修会の開催

CERADES News は、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン製作している刊行物です。

CERADES（セラデス）は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

データサイエンス教育の 動向と先行事例について

講師

山本 章博 氏

京都大学大学院 情報学研究科 教授 /
京都大学 国際高等教育院附属
データ科学イノベーション教育研究センター長

令和2年9月15日（火）、第1回全学FD/SD 研修会を開催しました。近年、大学において文系理系を問わず、全ての学生があらゆる分野で数理・データサイエンス・AIの基礎教育が求められています。データサイエンス教育は、大学はもちろん初等・中等教育においても国際競争力のためにも欠かすことはできないと言われています。データサイエンス教育を全国に波及させるために「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」が形成され、近畿ブロックの連携校として、今年度から本学も参加しています。そのような状況において、昨年度の全学FD/SD 研修会「教養としてのデータサイエンス」と題して、本学の情報理工学部の平井重行先生にご講演いただき、今回は、「データサイエンス教育」の第2弾として開催し、当日は学長をはじめとした教職員47名が参加しました。

講演要旨

諸外国と比較すると企業では意思決定におけるデータとアナリティクスの活用が遅れを取っている状況や世界に先駆けた「超スマート社会」の実現（Society 5.0）に向けて、日本の産業活動を活性化させるために必要な数理・データサイエンスの基礎を持ち、課題解決や価値創造に繋がられる人材育成が不可欠ことから、国は大学の数理・データサイエンスに係る教育強化を掲げている。京都大学でも情報教育を見直すため内部で様々な議論を重ね、データ科学イノベーション教育研究センターの設立や全学共通教育に情報教育の導入、「コンピュータリテラシーから情報リテラシー・情報活力への移行」、「数理統計からデータ科学リテラシーの活用への移行」を行った。また、京都大学は「数理及びデータサイエンスに係る教育強化の拠点校」の1つであり、AI戦略2019に基づき、モデルカリキュラムの提示や教材開発等を行うことで、数理及びデータサイエンス教育の全国展開に尽力している。

参加した 教職員の声

- ・データサイエンス、AIに対する京都大学および全国的な取り組みを理解する良い機会になりました。
- ・データサイエンス教育の概要と、全国展開の様子について初めてお伺いしましたが、データサイエンス教育のイメージを掴むことができました。
- ・導入に関する具体的な方針づくりや施策、裏側の「政治」を知ることができた。特に京都大学の独自の取り組みは参考になった。これからの本学の取り組むべき課題も見えた。

令和2年度第1回全学FD/SD研修会 データサイエンス教育の 動向と先行事例について

データサイエンス教育の第一人者である山本章博先生をお招きして、国が推進する「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」の動向も含めて、お話を伺います。「データサイエンスの大学教育の現状を知りたい」「全学部で推進している拠点大学の取り組みを聴きたい」「学部でデータサイエンス教育を取り入れたい」「本学での可能性を検討したい」といった関心をお持ちの教職員の皆様、ぜひご参加ください。

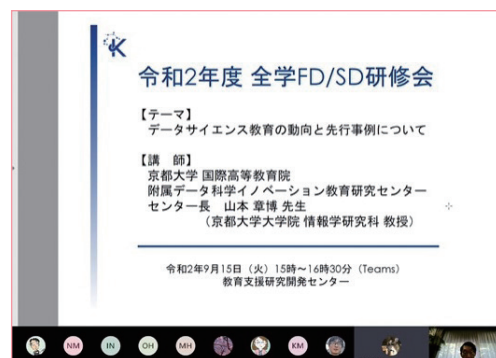
開催日時 9月15日(火)15:00-16:30

講師	内容
山本章博先生 京都大学 情報学研究科 情報学研究所教授 国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター長	大学におけるデータサイエンス教育の動向、コンソーシアムの活動、各大学の学部・学科で教育の取り組み等についてお話しします。本学のデータサイエンス教育の今後について参加者と一緒に考える予定です。

参加方法
事前に下記の申込フォームからお申込みのうえ、Microsoft Teamsのチームコード 2ewfsmj にてご参加ください。

申込フォーム
申込締切：9月14日（月）16時まで
※事務局の都合上、22日開校までに申込を 마감いたします。ただし、当日参加も可能です。

お問い合わせ先：4年組1階 教育支援研究開発センター事務局 075-765-1729
kyoka-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp



データサイエンス教育の 先行事例について

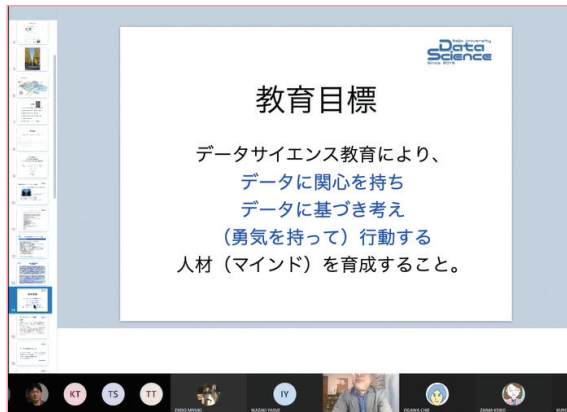
講師 **増川 純一 氏**（成城大学 経済学部 教授 / データサイエンス教育研究センター長）

令和2年12月14日(月)、第2回全学FD/SD研修会を開催しました。第1回に引き続き、「データサイエンス教育」をテーマとし、昨年度から続けている第3弾の位置づけであり、今回は、人文・社会科学系の学部で構成される成城大学が他大学に先駆けてデータサイエンス教育に着目し、それぞれの専門知識に「データサイエンス教育」を取り入れた具体的事例を紹介していただきました。当日は学長をはじめとした教職員36名が参加しました。



講演要旨

成城大学では、平成 27（2015）年よりデータサイエンス科目を設置し、教育目標に「データサイエンス教育により、データに関心を持ち、データに基づき考え、（勇気をもって）行動する人材（マインド）を育成すること」を掲げ、学生の育成に力を入れている。令和元（2019）年にはデータサイエンス教育研究センターを開設し、更に力を入れる体制を整え、カリキュラム改革については、外部アドバイザリー委員としてデータサイエンスの研究者や専門家を中心に推進している。今後の展望では、アクションプランとしてデータサイエンス系コンテストへの参加支援や専門教育との連携等を掲げた。最後に増川先生から、「一時の流行としてではなく、科学リテラシー（科学の常識や知見に従って意思決定し、行動できる）とデータリテラシー（データ【エビデンス】に基づき論理的に意思決定し、行動できる）を市民の常識として身につけさせるよう、大学も寄与しないといけない」と力強く述べられた。



参加した
教職員の声

- ・ 人文・社会科学系学部でのデータサイエンス教育を実施している例として、導入の部分と数学が実際に必要な具体的な部分とのカリキュラム設計の話が聞けたのが良かった。
- ・ 本学でも、類似のプログラムを開発・導入する必要性が高いことを認識できた。
- ・ これからの市民に必要なものとして、データサイエンス教育を位置づけるという視点は、大事であり、いわゆる現代型の「教養」に当たると感じた。

大学固有の内部質保証のストーリーを考える

—立命館大学の内部質保証システムと学習成果の可視化を手がかりに—

講師

鳥居 朋子 氏 (立命館大学 教育開発推進機構 教授 / 大学評価・IR 室 副室長)

令和3年2月9日(火)、第3回全学FD/SD 研修会を開催しました。本学は令和5(2023)年までに第3期の認証評価の受審が予定されており、第3期の認証評価では内部質保証が重点項目になっています。第3期の認証評価に対応するべく、既に第3期の認証を終え、高い評価を得た立命館大学の鳥居朋子先生を講師として招聘しました。当日は学長をはじめとした教職員64名が参加しました。

京都産業大学 令和2年度第3回全学FD/SD 研修会

大学固有の内部質保証のストーリーを考える

—立命館大学の内部質保証システムと学習成果の可視化を手がかりに—

2021年2月9日(火) 13:15~14:45

第3回全学FD/SD研修会においては、この第3期の認証評価で高い評価を受けた立命館大学教育開発推進機構 鳥居朋子教授を講師にお招きし、「大学固有の内部質保証のストーリーを考える」をテーマとしてご講演いただきます。日本における高等教育研究を牽引されてこられた鳥居先生をお迎えしての研修会は、次の第3期の認証評価を控えた本学教職員にとってまたとない機会です。ぜひご参加ください。



講師・鳥居 朋子 先生

立命館大学 教育開発推進機構 教授
大学評価・IR 室 副室長

参加方法

2月8日(月)正午までにMicrosoft forms申込フォームでお申込みのうえ、Zoomでご参加ください。



申請書の提出・確認・登録はご遠慮ください。お申し込みは、kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp までお問い合わせください。4年班1期 教育支援研究開発センター事務局 (075-705-1729)

講演要旨

第3期の認証評価では、内部質保証が重点項目となっている。教学マネジメントと密接な関係にあり、教学マネジメントとは、令和2(2020)年1月に中教審で教学マネジメント方針が公表され、「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである」と定義されている。教育に関する内部質保証システムを運用する個々の大学の自律的な営みが教学マネジメントであると理解でき、今回の講演の副題にもあるとおり、内部質保証が機能するためには「大学独自の内部質保証のストーリーを作ることが重要」である。鳥居先生は、①「如何に大学構成員の当事者意識を涵養しつつ、組織における質文化を醸成し、内部質保証の取り組みのサステナビリティを高めるか」、②「継続的改善に向けて、如何にIRとFDを連動させるか」、③「実践的・研究的な課題解決、事例共有の必要性」を課題意識としてあげ、立命館大学の取組を詳細に解説された。特に、「IRとFDを繋ぐ場は自然発生しないため、意識的に場として設定する必要がある」と示唆された点については、多くの参加者の共感を得ました。

参加した 教職員の声

- ・ 認証評価が特別なものではなく日常のルーティーンに組み込まれており、大変参考になった。
- ・ 「内部質保証」と言われても、半ば「漠然」としていたが、大学の具体的事例とも言えるものを紹介・説明していただき、少しではあるがイメージが湧いてきた。
- ・ 全学的な統一したものも必要だが、学部によって学びが違ふことは明らかであり、そのためにもやはり学部(現場)に近いところで、データを活用いただける環境の構築や意識の醸成が必要であると改めて思いました。
- ・ 全部を一度に評価していくという無理はせずに、テーマをもって評価を進めていくという現実的な視点も忘れてはいけないことを、改めて認識しました。